

証券コード 4112



**Your Dream Is Our Business**

化学で夢のお手伝い

**第158期 中間期 株主通信**

2015年4月1日～2015年9月30日

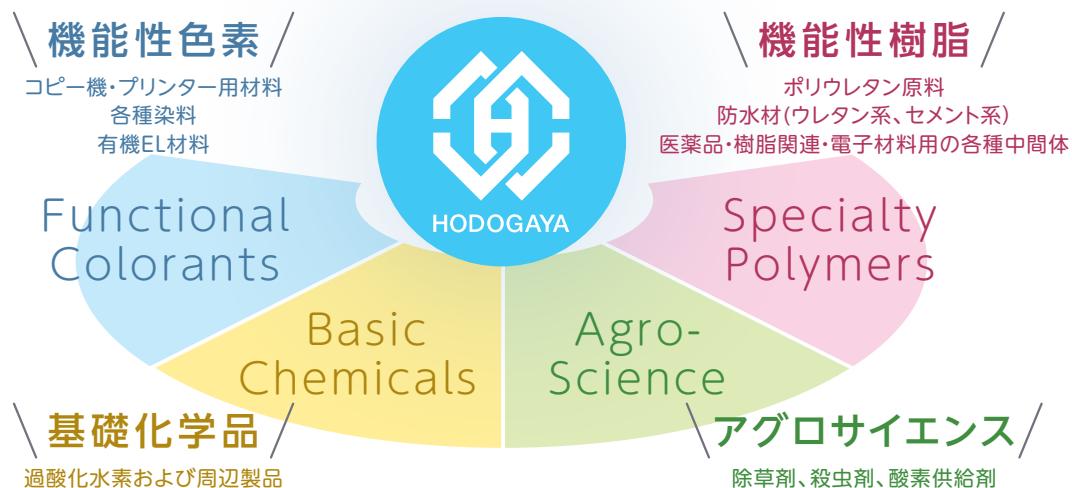
# BUSINESS REPORT

私たちは、化学技術の絶えざる革新を通じ、  
お客様が期待し満足する  
高品質の製品・サービスを世界に提供し、  
環境調和型の生活文化の創造に貢献します。

● 事業概要

保土谷化学グループの特長は、機能性色素・機能性樹脂・基礎化学品・アグロサイエンス・物流などの各分野で、グループ企業各社が高いスペシャリティを持っていることです。

研究開発・生産・販売が三位一体となり、お客様の多種多様なニーズに対して、スピーディーに高品質の製品やサービスを提供してまいります。



# 新中期経営計画“HONKI 2020”を始動させ、 基盤事業強化と将来事業育成を推進しています。



保土谷化学工業株式会社  
取締役社長

喜多野利和

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループは2016年の創立100周年という大きな節目に向けて、「グローバル・ニッチ分野で、オンリーワン・ナンバーワンのスペシャリティ製品を創出し続ける企業」となることを目指し、基盤事業・企業体質の強化や事業拡大などを進めております。こうした中、当社グループは2015年度より、2020年度を最終年度とする新たな中期経営計画“HONKI 2020”を始動させました。6カ年にわたるこの“HONKI 2020”では、基盤事業の強化を図りながら将来の事業の育成に取り組んでまいります。

ここに2015年度上期（2015年4月1日～9月30日）の業績および今後の見通しについてご報告いたします。

2015年12月

## ●2015年度上期連結業績サマリー

		(前年同期比)
売上高	16,062百万円	△1.9%
営業利益	17百万円	△58.7%
経常利益(△損失)	△47百万円	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益(△損失)	△41百万円	—

## 上期の業績について

厳しい事業環境のなか、

上期の業績は営業損益黒字を確保しました。

2015年度上期における世界経済は、米国経済が個人消費や雇用環境が回復基調で推移し、成長を維持しており、欧州経済は、個人消費がけん引役となり、緩やかな回復が続いてきました。

しかし、9月に発生した排ガス不正問題が、今後ドイツを中心として景気に悪影響を及ぼす懸念があります。

また、最近になって中国経済の減速傾向がはっきりしてくる中、世界経済へのマイナス影響が懸念されるなど、先行き不透明な状況が続いております。

一方、わが国経済は、政府や日本銀行の財政・金融政策の効果や、円安の影響により、景気は緩やかな

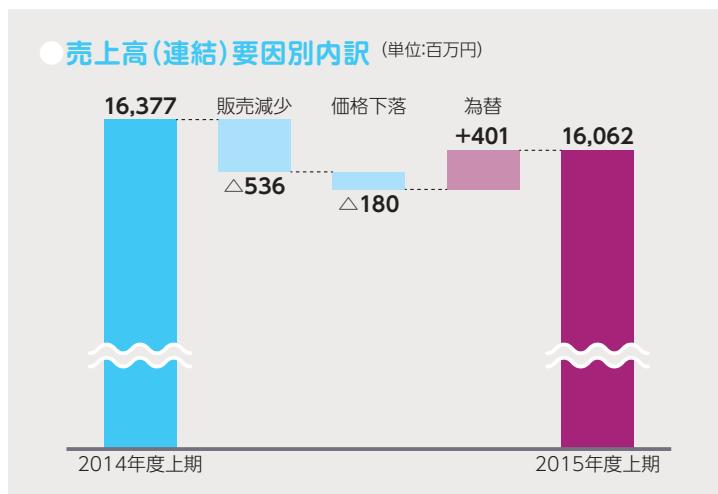
回復基調を継続していましたが、前述の世界経済の影響を受け、10月の月例経済報告では、日本政府は、景気の現状判断を1年ぶりに引き下げており、景気の下振れリスクが強まっています。

このような情勢のもと、上期の連結売上高は、前年同期比3億15百万円減の160億62百万円となりました。機能性樹脂セグメントでは、増収を確保した一方、機能性色素・基礎化学品・アグロサイエンスの3つのセグメントでは、減収となっております。

また、機能性樹脂セグメントでは、ウレタン原料の需要が堅調に推移し、特に建築用途向け樹脂材料が好調だったことにより増収となりました。一方で、機能性色素セグメントでは、環境対応型有機光導電体やアルミ着色用・文具用染料が堅調であったものの、有機EL材料の需要減少や競争激化により大幅な減収となりました。また基礎化学品セグメントでは、過酸化水素誘導品事業の需要の減少で減収となり、アグロサイエンスセグメントでは、競争激化などで減収となりました。

また損益面では、営業利益が前年同期比25百万円減の17百万円の黒字を確保しました。経常利益は、前年同期比28百万円減の47百万円の損失となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比27百万円増の41百万円の損失となりました。

なお、配当金につきましては、業績動向、将来の事業展開、不測のリスク対応等を総合的に勘案し、配当予想どおり中間配当を1株当たり2円50銭とさせていただきます。



# 2015年度通期の見通し

## 来るべき創立100周年に向けて 基盤事業の安定化に注力します。

2020年度に向けてスタートさせた新たな中期経営計画“HONKI 2020” (Hodogaya as Only one, Number one with our Key technology and Imagination) の初年度である2015年度上期、当社グループでは、現在すでに収益を上げている基盤事業の安定化を図るべく、拡販やコストダウンに努めてまいりました。特に、昨年8月に始動した中国の保土谷（上海）貿易有限公司では、高品質・低価格というアプローチにより、アジア地域へのトナー用電荷制御剤の販売が大きく伸長するなど一定の成果が上がっております。2015年度下期では、グループ全体として更なる拡販施策を各セグメントで積極展開するとともに、より一層のコストダウンに取り組んでまいります。特に機能性色素セグメントでは、有機EL材料において当社製品とグループ会社の製品を組み合わせたセット販売を主にアジア地域で展開するほか、低迷するスマートフォン市場だけでなく、タブレットPCや照明分野にも注力

するとともに、より効率的な開発体制の構築に取り組んでまいります。また、アグロサイエンスセグメントでは、開発を進めてきた新製品の投入により業績伸長を見込んでおります。

また、コーポレート・ガバナンスの強化やワークライフバランスの推進などの企業の社会的責任（CSR：Corporate Social Responsibility）にもこれまで以上に尽力いたします。目前に迫った創立100周年に向け、引き続き基盤事業の安定化に注力しながら、競争力と収益力の回復、そして新事業・新製品の創出・育成などを支える将来の拡大に向けた体制整備の構築をグループ一丸となって邁進してまいります。

なお、上記の経営環境や取り組みを踏まえた2015年度通期の連結業績予想は、売上高360億円（前期比3.8%増）、営業利益8億円、経常利益6億円、親会社株主に帰属する当期純利益4億円を見込んでおります。また、期末配当金につきましては、1株当たり2円50銭を予定しております。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

### ● 経営目標

### 2020年度(計画)

売上高	500億円
営業利益	50億円
営業利益率	10.0%

### ● 2015年度通期連結業績予想

売上高	360億円
営業利益	8億円
経常利益	6億円
親会社株主に帰属する当期純利益	4億円

## 機能性色素



### ● 上期の概況

イメージング材料事業は、プリンター向け材料で依然厳しい状況が続いていますが、一部で新製品が採用されたこともあり、前年同期並みを確保しました。色素材料事業は、デジタル家電向けアルミ着色用染料が好調に推移し、また、食用色素も需要が回復しましたが、その他の染料で海外向けの需要が大幅に減少し、前年同期並みとなりました。有機EL材料事業は、スマートフォン向け需要の減少に加え、競争激化により、大幅な減収となりました。以上の結果、当セグメントの売上高は、39億28百万円となり、前年同期比2億58百万円(6.2%)の減収、となりました。

### ● 売上高

**3,928**百万円

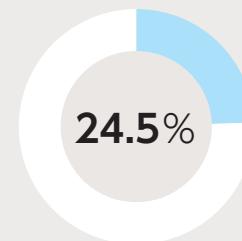
(前年同期比6.2%減)

### ● 営業利益(△損失)

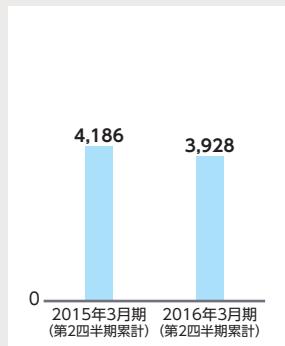
**△764**百万円

(前年同期比一)

### ● セグメント別売上高比率



### ● 売上高(百万円)



### ● 営業利益(△損失)(百万円)



事業	用途
イメージング材料	トナーの重要な添加剤である電荷制御剤、コピー機・プリンターの心臓部品である有機光導電体ドラム用の材料、インクジェットプリンター用の染料
色素材料	アルミ着色用および文具用の染料、カラートリートメント用染料、食品添加物
有機EL材料	有機ELディスプレイ・照明の主要材料(正孔輸送材料・電子輸送材料・発光材料)

# 機能性樹脂



## ● 上期の概況

樹脂材料事業は、ウレタン原料が、国内外で安定した需要が続いたことに加え、期初に、建築用途向けが増えたことで、増収となりました。建築材料事業は、止水材料・工事が引き続き好調に推移しましたが、防水材料・工事が低迷し、前年同期並みとなりました。特殊化学品事業は、医薬品分野で堅調に推移しましたが、その他の分野で顧客の在庫調整があり、前年同期並みとなりました。以上の結果、当セグメントの売上高は、60億79百万円となり、前年同期比90百万円（1.5%）の増収となりました。

## ● 売上高

**6,079百万円**

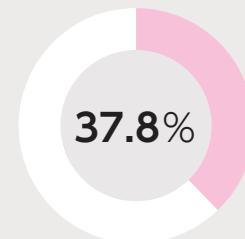
（前年同期比1.5%増）

## ● 営業利益

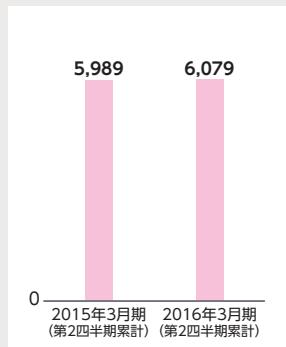
**339百万円**

（前年同期比87.3%増）

## ● セグメント別売上高比率



## ● 売上高(百万円)



## ● 営業利益(百万円)



事業	用途
樹脂材料	ポリウレタン原料、接着剤、剥離剤
建築材料	ウレタン系防水材 (ビルや立体駐車場の屋上 ほか) セメント系防水材・止水剤 (下水場、浄水場、地下ピット ほか)
特殊化学品	医薬品・樹脂関連・電子材料用の中間体

## 基礎化学品



## ● 上期の概況

過酸化水素事業は、紙パルプ、および環境分野向けの需要が堅調に推移しましたが、誘導品事業（過炭酸ナトリウム、過酢酸）の需要の減少や、その他の工業薬品で、一部製品の競争激化がありました。以上の結果、当セグメントの売上高は、33億76百万円となり、前年同期比18百万円（0.5%）の減収となりました。

## ● 売上高

**3,376**百万円

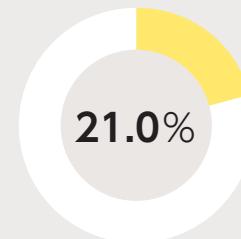
（前年同期比0.5%減）

## ● 営業利益

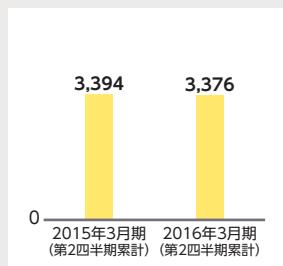
**279**百万円

（前年同期比342.9%増）

## ● セグメント別売上高比率



## ● 売上高(百万円)



## ● 営業利益(百万円)



事業	用途
工業薬品 (過酸化水素)	紙パルプ・繊維などの漂白剤、土壌処理などの環境浄化剤、養殖魚の寄生虫駆除剤 ほか



## トピックス ●

「夏休み子ども化学実験ショー」に出展しました。

当社は8月1日～2日、横浜工場・筑波研究所が中心となり、科学技術館で行われた「夏休み子ども化学実験ショー」に出展しました。これは「実験を通じて、化学への興味を深めてもらい、未来の化学業界

# アグロサイエンス



## ● 上期の概況

アグロサイエンス事業は、メガソーラー向け除草剤が堅調に推移しましたが、家庭園芸用除草剤で顧客の在庫調整があり、減収となりました。以上の結果、当セグメントの売上高は、16億40百万円となり、前年同期比1億3百万円（6.0%）の減収、となりました。

## ● 売上高

**1,640百万円**

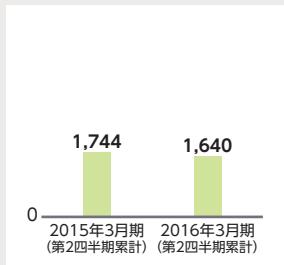
(前年同期比6.0%減)

## ● 営業利益(△損失)

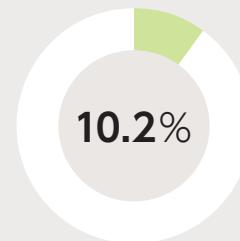
**△25百万円**

(前年同期比一)

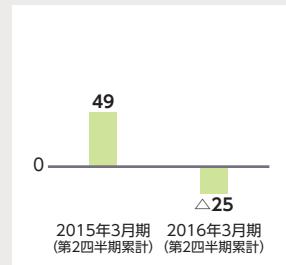
## ● 売上高(百万円)



## ● セグメント別売上高比率



## ● 営業利益(百万円)



事業	用途
農業	非農耕地・ゴルフ場・緑地管理分野などの除草剤・殺虫剤・酸素供給剤 ほか

での有望な人材育成につなげる」という目的のもと、進めている取り組みです。

当社では、アルミ着色用染料を使った実験を行いました。子どもたちに自分で文字や模様を入れ、

好きな色に染めて、オリジナルのしおりを作ってもらおうという趣向です。

参加してくれた子どもたちは、両日合わせ260名で、本当に楽しそうに取り組んでいました。



# 連結財務情報

## ● 連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期末 (2015年3月31日現在)	当第2四半期末 (2015年9月30日現在)
資産の部		
流動資産	23,948	22,676
固定資産	30,534	28,923
有形固定資産	22,625	21,675
無形固定資産	974	614
投資その他の資産	6,934	6,632
<b>Point 1</b> 資産合計	<b>54,483</b>	<b>51,600</b>

### Point 1 資産合計

資産合計は、受取手形及び売掛金の減少20億9百万円、有形・無形固定資産の減少13億9百万円、現金及び預金の減少4億69百万円、有価証券の増加11億円等により、前期末比28億83百万円減の516億円となりました。

### Point 2 負債合計

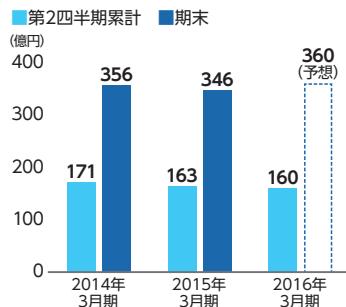
負債合計は、支払手形及び買掛金の減少8億13百万円、短期・長期借入金の減少6億66百万円等により、前期末比17億60百万円減の206億16百万円となりました。

(単位:百万円)

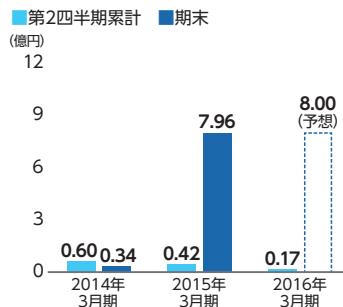
科目	前期末 (2015年3月31日現在)	当第2四半期末 (2015年9月30日現在)
負債の部		
流動負債	12,618	11,881
固定負債	9,757	8,735
<b>Point 2</b> 負債合計	<b>22,376</b>	<b>20,616</b>
純資産の部		
株主資本	23,171	22,931
資本金	11,196	11,196
資本剰余金	9,589	9,589
利益剰余金	4,084	3,844
自己株式	△1,699	△1,699
その他の包括利益累計額	6,397	5,842
非支配株主持分	2,537	2,210
純資産合計	32,107	30,983
負債純資産合計	54,483	51,600

## ● 連結業績の推移

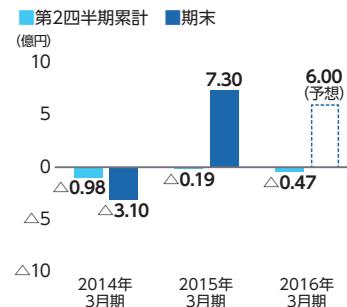
### ● 売上高



### ● 営業利益



### ● 経常利益(△損失)



### ●連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期累計 (2014年4月1日~ 2014年9月30日)	当第2四半期累計 (2015年4月1日~ 2015年9月30日)
<b>Point 3</b> 売上高	<b>16,377</b>	<b>16,062</b>
売上原価	11,535	11,226
売上総利益	<b>4,841</b>	<b>4,835</b>
販売費及び一般管理費	4,799	4,817
<b>Point 4</b> 営業利益	<b>42</b>	<b>17</b>
営業外収益	251	152
営業外費用	313	217
経常損失	<b>△19</b>	<b>△47</b>
特別利益	111	16
特別損失	1	25
税金等調整前四半期純利益(△損失)	<b>90</b>	<b>△56</b>
法人税等	<b>94</b>	<b>159</b>
四半期純損失	<b>△3</b>	<b>△215</b>
非支配株主に帰属する四半期純利益(△損失)	<b>66</b>	<b>△173</b>
親会社株主に帰属する四半期純損失	<b>△69</b>	<b>△41</b>

### ●連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期累計 (2014年4月1日~ 2014年9月30日)	当第2四半期累計 (2015年4月1日~ 2015年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	<b>2,235</b>	<b>1,852</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー	<b>△62</b>	<b>△695</b>
財務活動によるキャッシュ・フロー	<b>754</b>	<b>△883</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	<b>161</b>	<b>△118</b>
現金及び現金同等物の増減額	<b>3,089</b>	<b>155</b>
現金及び現金同等物の期首残高	<b>4,190</b>	<b>6,654</b>
現金及び現金同等物の四半期末残高	<b>7,280</b>	<b>6,810</b>

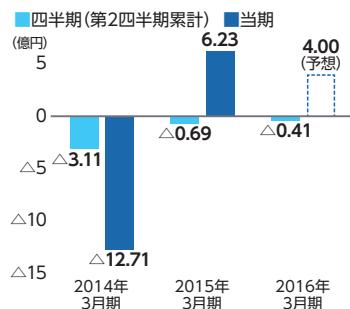
### Point 3 売上高

売上高は、機能性樹脂が増加したものの、機能性色素、基礎化学品、アグロサイエンスが減少したことにより、前年同期比3億15百万円減の160億62百万円となりました。

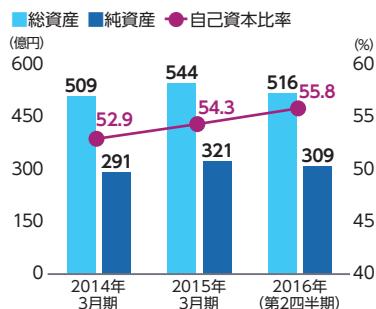
### Point 4 営業利益

営業利益は、売上原価が減少したものの、売上の減少をカバーできず、25百万円減の17百万円となりました。

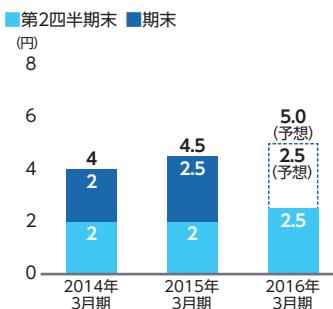
### ●親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益(△損失)



### ●総資産・純資産

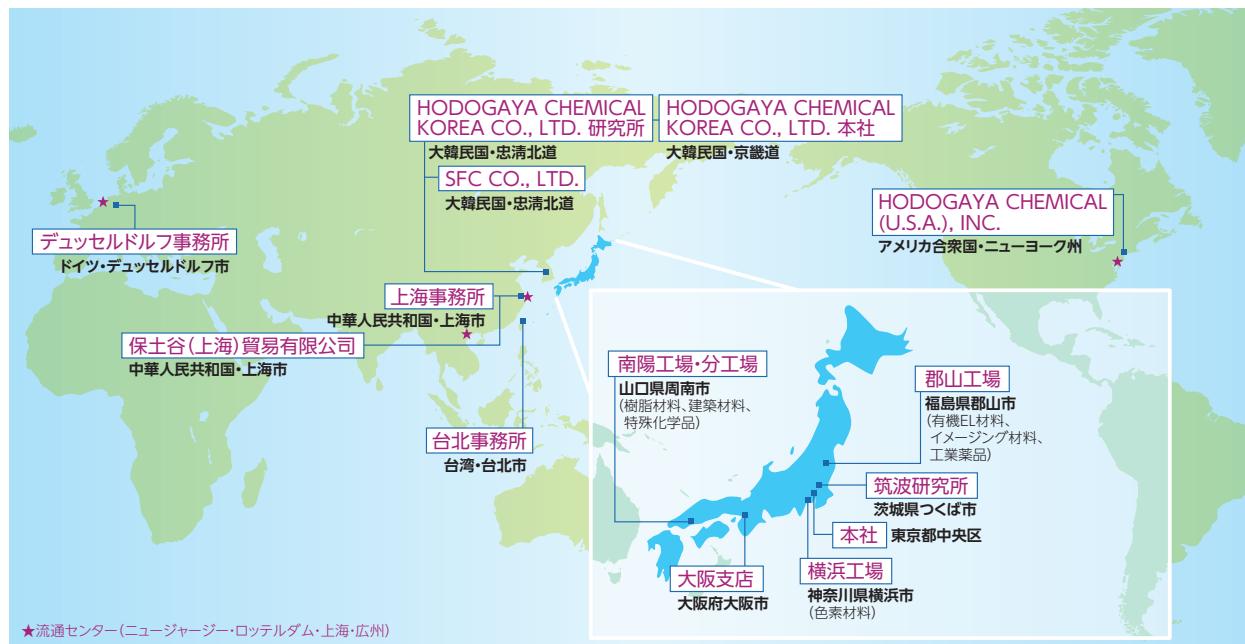


### ●1株当たり配当金



※「企業結合に関する会計基準」等を適用し、当期より、「少数株主損益調整前四半期純利益」は「四半期純利益」に、「少数株主利益(△損失)」は「非支配株主に帰属する四半期純利益(△損失)」に、「四半期純利益(△損失)」は「親会社株主に帰属する四半期純利益(△損失)」としております。

# グローバルネットワーク



## ● グループ会社 (当社の出資比率)

機能性色素	
<b>SFC CO., LTD. (大韓民国)</b>	
有機EL材料および精密化学品の製造・販売	51.9%
<b>HODOGAYA CHEMICAL KOREA CO., LTD.</b>	
化学品の仕入・販売および開発	85.0%
機能性樹脂	
<b>保土谷バンデックス建材(株)</b>	
土木・建築材料の製造・販売	100.0%
基礎化学品	
<b>共同過酸化水素(株)</b>	
過酸化水素の製造	25.0%
アグロサイエンス	
<b>保土谷UPL(株)</b>	
農薬の製造・販売	60.0%
<b>保土谷アグロテック(株)</b>	
農薬の製造・販売	80.0%

他グループ会社1社

その他	
<b>桂産業(株)</b>	
化学品の仕入・販売	100.0%
<b>HODOGAYA CHEMICAL (U.S.A.), INC.</b>	
化学品の仕入・販売	100.0%
<b>保土谷(上海)貿易有限公司</b>	
化学品およびその原料の仕入・販売	100.0%
<b>保土谷ロジスティックス(株)</b>	
倉庫業、貨物運送取扱業	100.0%
<b>保土谷JRFコントラクトラボ(株)</b>	
化学品の分析および研究・開発業務受託	87.6%

他グループ会社2社

# 桂産業株式会社

桂産業株式会社は、ポリウレタン系樹脂、食品添加剤から文具・塗料用染料まで、生活を豊かにする製品の原料となる様々な化学品の仕入・販売を行っています。

私たち桂産業があらためて考えるのは、化学に対する様々なニーズとそれを扱う者の責任です。化学技術の発展と共に、人類の進歩のスピードはますます加速していますが、同時に環境保全の必要性・重要性も高まっています。地球というかけがえのない環境を

守りつつ、人類に役立つ化学品を供給する。これらを両立するために、地球規模・未来規模の大きな視点と、個人の生活を見つめる身近な目を持つ企業であること。それが、私たちの目標です。

私たちは、化学品業界において相互に協力し合いながら、各々の機能性を最大限に生かし、新たな製品の開発に貢献できるよう、国内外を問わず、情報・原料・製品の提供に努めてまいります。

## ●会社概要

本社 〒104-0028  
東京都中央区八重洲  
2丁目4番1号  
ユニゾ八重洲ビル

営業所 大阪営業所  
名古屋営業所

代表者 加藤 博

設立 1917年  
(創業1872年)

資本金 3,000万円

## ●あゆみ

桂産業の前身である「横浜 桂屋喜八商店」は、新潟県桂村出身の渡辺喜八により創業されました。江戸末期、安政年間（1854年～）にはすでに存在したことが確認されています。この時代は勝海舟や坂本龍馬が活躍する以前のこと。まさに日本の貿易商社の草分け的存在といえるでしょう。

ちなみに創業者、渡辺喜八の出身地である桂村（現 岩船郡関川村）には、江戸時代中期に火災から再建された豪壮で広大な数寄屋造りの屋敷が、国指定重要文化財として現存しています（本桂屋、渡辺家）。「横浜 桂屋喜八商店」は、江戸期からドイツ、インドなどのメーカーと交流をはじめ、明治には「桂屋柴田商店」と名を改め、日本橋瀬戸物町で染料商として創業。大正のはじめには、すでに上海、ニューヨーク出張所、さらに昭和に入ると中国の各地やソウルなどにも出張所を設け、着実にそのネットワークを広げてきました。



## ●会社概要

社 名 保土谷化学工業株式会社  
 英文社名 Hodogaya Chemical Co., Ltd.  
 本社所在地 〒104-0028  
 東京都中央区八重洲二丁目4番1号  
 ユニゾ八重洲ビル  
 T E L 03-5299-8000(大代表)  
 F A X 03-5299-8250  
 設 立 1916(大正5)年12月15日  
 資 本 金 111億96百万円  
 従 業 員 703名(連結)、441名(個別)

## ●役員

取締役社長兼 社長執行役員	喜多野利和	社外取締役 (監査等委員)	佐藤 正昭
取締役 兼 常務執行役員	砂田 栄一	社外取締役 (監査等委員)	加藤 周二
取締役 兼 常務執行役員	笠原 郁	社外取締役 (監査等委員)	山本 伸浩
取締役 兼 常務執行役員	堀切 良浩	取締 役 (監査等委員)	蛭子井 敏
取締役 兼 常務執行役員	松野 眞一	取締 役 (監査等委員)	三柴 英嗣
取締役 兼 常務執行役員	松本 祐人		

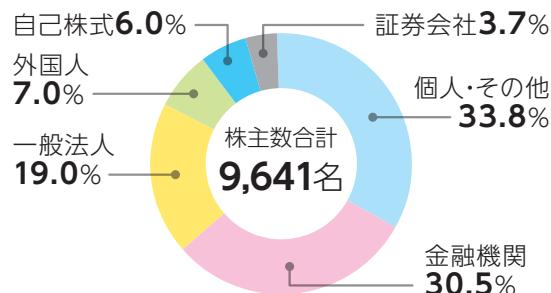
## ●株式の状況

発行可能株式総数 **200,000,000株**  
 発行済株式の総数 **84,137,261株**  
 株 主 数 **9,641名**

## ●大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	出資比率(%)
東ソー(株)	7,000	8.3
保土谷化学工業(株)(自己株式)	5,079	6.0
(株)みずほ銀行	2,987	3.6
農林中央金庫	2,274	2.7
明治安田生命保険(相)	1,645	2.0
(株)東邦銀行	1,483	1.8
三井住友海上火災保険(株)	1,414	1.7
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	1,326	1.6
(株)山口銀行	1,300	1.5
(株)三菱東京UFJ銀行	1,201	1.4

## ●所有者別株式分布状況



## ●株主メモ

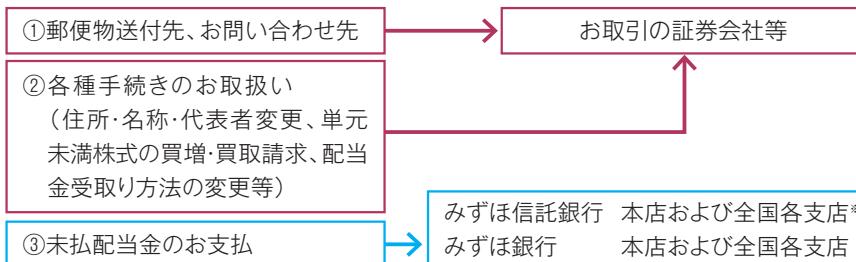
事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当基準日	3月31日(中間配当を行う場合は9月30日)
定時株主総会	毎年6月中
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
公告方法	電子公告( <a href="http://www.hodogaya.co.jp/">http://www.hodogaya.co.jp/</a> ) ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

## ●上場株式配当等の支払いに関する通知書について

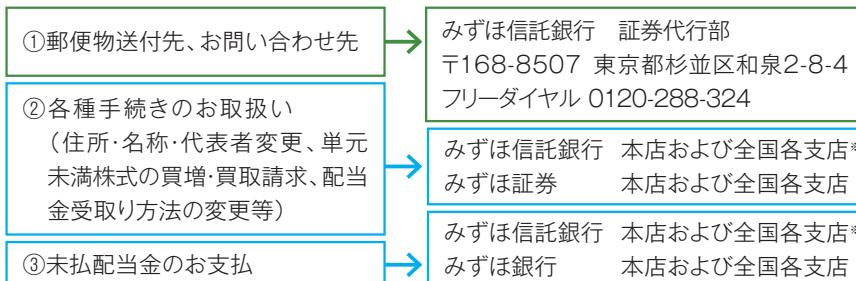
租税特別措置法の改正により、株主様に支払配当金額や源泉徴収税額等を記載した支払通知書を送付することとなっております。つきましては、支払通知書の法定要件を満たした配当金計算書を同封しておりますので、確定申告の添付書類としてご使用ください。なお、配当金を株式数比例配分方式によりお受け取りの場合、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われますので、確定申告の添付書類としてご使用いただける支払通知書につきましては、お取引の証券会社等へご確認ください。

## ●株式事務に関するお問い合わせ先

### ●証券会社等に口座をお持ちの場合



### ●証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)



### ●特別口座とは

2009年1月5日に実施された株券電子化までに、証券会社を通じて株券を証券保管振替機構(ほふり)に預けていない場合に、株主様の権利を保全するために当社がみずほ信託銀行に開設した口座のことです。特別口座では、単元未満株式の買増・買取以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続きを行っていただく必要があります。

\*トラストラウンジ除く

## おかげさまで創立100周年

当社は、2016年に創立100周年を迎えます。

これもひとえに、株主の皆様のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

この100周年を記念して、記念ロゴを従業員から公募し、作成いたしました。

記念ロゴには、『未来に向けて、新しい化学技術の芽を無限に生み出し、

また、「化学で夢のお手伝い」から、その夢を実現させ、かたちにしていく』

という想いが込められています。



### ご存じですか？

#### 単元未満株式(1~999株)の買増・買取制度について

当社株式は、証券市場での売買、株主総会における議決権行使の権利が1,000株単位となっております。

当社では、現在、単元未満株式をご所有の株主様に対し、単元未満株式を単元株式(1,000株)までお買い求めいただける「単元未満株式買増制度」を採用しております。

また、単元未満株式を売却できる「単元未満株式買取制度」もございますので、併せてご案内申し上げます。

なお、**買増・買取手続きにおける手数料は無料(当社負担)**とさせていただきますので、ぜひお申し込みください。お手続き・お問い合わせ先につきましては、「株式事務に関するお問い合わせ先」(14ページ)をご覧ください。

### ●IRカレンダー 2015年度予定

